

真田坂

～先人からの伝言～

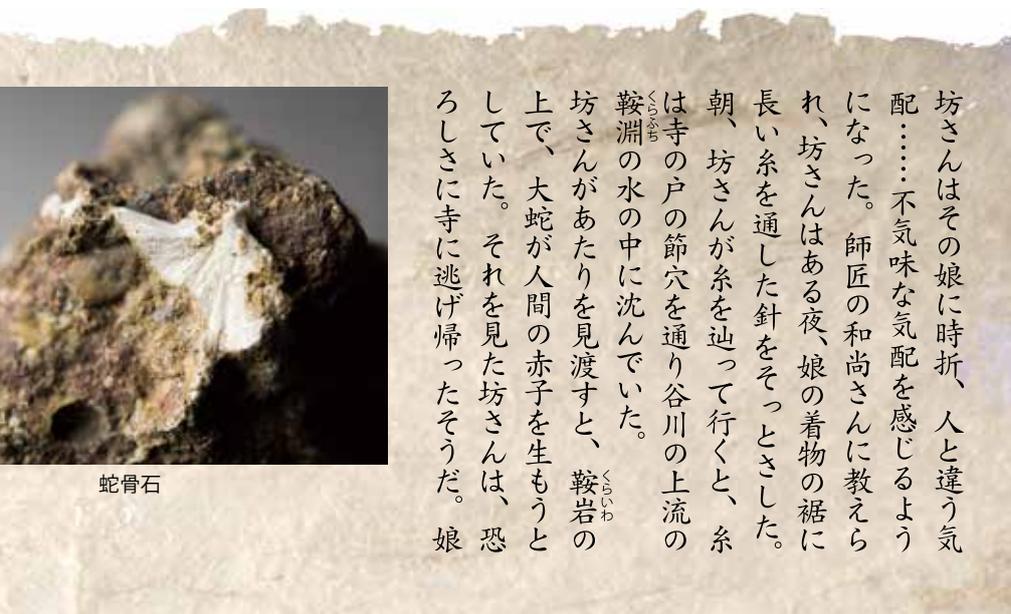
上田の民話「小泉小太郎」

不思議な形！ きれい！ 珍しい化石や石、地形
上田の化石・岩石・鉱物

むかあし、むかし。

塩田平は手塚の鉄城山(てつじょうざん)のてつぺんに、小さな山寺(やまでら)があった。そこに若く、りりしい坊さんと、そのお師匠さんの年を取った和尚さんが住んでおった。二人は、俗世間とすっぱり縁を切って、仏道修行一筋に明け暮れておったと、いつその坊さんのもとに、いつの頃からか、夜な夜な美しい娘が通ってくるようになった。やがて親しくなった二人だが、……

次ページに続く



蛇骨石

坊さんはその娘に時折、人と違う気配……不気味な気配を感じるようになった。師匠の和尚さんに教えられ、坊さんはある夜、娘の着物の裾に長い糸を通した針をそっとさした。朝、坊さんが糸を辿って行くと、糸は寺の戸の節穴を通り谷川の上流の鞍淵くらふちの水の中に沈んでいた。坊さんがあたりを見渡すと、鞍岩くらいわの上で、大蛇が人間の赤子を生もうとしていた。それを見た坊さんは、恐ろしさに寺に逃げ帰ったそうだ。娘



先人からの伝言

上田の民話

西塩田・小泉

語り・文 稲垣勇一

小泉小太郎



小泉の集落と小泉山



小泉小太郎を語り聞かせる稲垣氏



鞍淵と鞍岩



鉄城山(現:独鉦山)



産川の流れ

は鞍淵の主の大蛇の化身だった。娘は本当の姿を見られた恥ずかしさ悲しさと、針のくろがねの毒が全身にまわった苦しきで、赤子を産んだ後、三日三晩のたうち苦しみ嵐を呼んで死んだ。

蛇の骨は蛇骨石じやこつしとなってばらばらに下流に散らばり、川は蛇がお産をした川、産川さんかわと呼ばれた。

「小泉小太郎」の特色と地域性

古来、蛇は人々にとって、自分たちの理解を超えた沢山の不思議な力を持つ畏敬の対象だった。脱皮すること、強い生命力や精力を持つこと、冬眠すること、異様な形であること、猛毒のママシママシがいること等々。とりわけ、水陸を自在に行き来する力や、くねくねと水を渡る姿に、川の流れや稲妻の形を重ね、水神あるいはそのお使いと捉え、深く信仰するようになる。また、脱皮や冬眠の習性に、死と再生を繰り返す命の永遠を見、これも強い憧れと信仰の対象となった。

それはやがて、主に朝鮮半島や中国から先進文化と共に移入された、比較的新しい竜信仰と結びつく。水神は竜蛇りゆうだとして日本の表層文化の津々浦々

に広がる。けれども蛇神信仰は、地域民俗の深層に広く根強く今も残る。

「小泉小太郎」伝説は、その深く深い日本固有の水神信仰を引き継ぐ。竜神と切り離して、きつぱりと蛇神として伝承されていることが貴重な特徴といえる。安易に竜と結び付けて伝えてはならない。またこの伝説は、古く三輪山みわやま伝承とも通じる芋環あまぐわ(おだまき)型話型の異類婚姻譚いりょうこんいんたん。それは竜では成立しない。蛇でなければならぬ。ではなぜ、塩田平に暮らす人々の思いとして、この蛇にまつわる物語が生まれたのだろうか。そこには上田地方も含めた塩田の地域性・風土性が色濃く染め込まれる。

塩田平の南に一見高くそびえて見える独鉦山どくせんざんは、実は岩が多く保水力が低い。また、山の南はすぐ内村の深く長い沢で、山も浅い。その上、上田地方は全国でも有名な少雨の地である。だから、独鉦山をほとんど唯一の水源にする産川は、夏の渇水期になると狐川とか化け川といわれ、水が地表から消えてしまう時や所もある。

さらに江戸時代、塩田三万石といわれる穀倉地帯で、塩田平の人々にとって水の便の悪さは、他の土地以上に死活問題だった。したがって水への思いは大変強く、基本的な水対策である溜池造成の外に水神への信仰が厚く「延喜式えんぎしき」にも載る水を御神体とする

塩野神社もあり、「岳の幟たけのぼり」を始めとして雨乞い行事も多様に残されている。そうした事の上に「小泉小太郎」伝説は成り立ち伝えられてきた。

洪水の産川の流の上を赤子はやすやすと下小島まで流されてきたと。そこで増水の様子を見に来た爺さまに拾われた。拾い上げて爺さまが赤子を見ると、裸のわきの下に蛇の鱗のようなあざがある。

「ふしぎな命をもった児だ。水神さまの申し子かもしれん」

爺さまは家に連れ帰り、小太郎と名づけて、婆さまと二人でそりやあ大事に可愛がって育てた。爺さまが亡くなった後、婆さまは小太郎を連れて小泉に移った。それから小太郎は小泉小太郎と呼ばれるようになった。ところがこの小太郎、ぐうたらぐうたらの怠け者、近所の子供と外で遊ぶでもなく、むろん婆さまの野良仕事を手伝うでもない。家でごろごろしているだけだ。

それを見て小泉の衆は「なにが水神さまの申し子だ。婆さま、疫病神かかえてえらいことだ」と陰で噂し合った。

*芋環(おだまき)型話型
つむいで長くした麻糸を巻いたおだまきのように、長い糸をモチーフとした話型

小太郎が十五になったある日のこと。婆さまの愚痴を聞くと突然起きあがって、小一日で小泉山じゅうの萩を根こそぎにして二束に束ねて持ち帰った。婆さまがその束を解くと、萩は家いっぱいにはぜ、その下敷きになって婆さまは死んだ。今でも小泉山に萩はない。

「小泉小太郎」の 現代性と未来性

物語はここから本格的に里人間世界の話に移る。

世間の目から見ると、小太郎はどうにも異様な少年だ。世間の人は常識はずれという表面的で目先の事柄だけを見て、困ったものだと判断する。けれど、親・親族・親しい人々の目は、それと違う。外から目線の価値判断

や感情で疎外することなどできない。命への思いが異なるのだ。婆さまは周囲がなんと言おうと、小太郎をひたむきな愛情で包み続ける。

子供はそうした大人の信頼や愛情を目いっぱい受けて、知恵とエネルギーを溜めて行く。そしてある日突然、周囲が目を見張るような力を示す。長いこと幼な気だった子どもに三、四カ月ぶりに会って、大人びた行動や思いやりに驚く。そして「大きくなつたねえ、急に」と思わず声をかける。今も日常によくある情景だ。子どもは溜めては伸び、溜めては伸びて階段式に成長して行く。溜めの時間や質は個々の子どもによって違う。小太郎は溜めの期間が際立って長かっただけだ。その分、溜め込んだ知恵とエネルギーは大きい。思いの浅い大人は、それが読めずに待てない。子どもも未来が見えない。そして「三年寝太郎」とか「ものぐさ太郎」とか揶揄する。彼らの将来の大きな仕事など見当もつかない。それが待てるのは無償で賢い愛と信頼だけだ。

そう。「小泉小太郎」物語は、婆さまの姿を通して私たちに伝える。

「小泉小太郎」伝承を、ここでは二つの視点から見えてきた。もちろん、この伝承が伝えるものはそればかりではない。例えば、異界・境界とは何か、川や水の力をどう捉えているか、老婆の死

は何を語りかけているのかなどなど。民話は象徴の文芸である。ひとつの事柄が含むものの奥は深く広い。私たちがそこに立ち止まり「小泉小太郎」伝承を通して語りかける先人の思いに耳を傾け、その人々に繋がる。民話と向き合うことの醍醐味がそこにある。



これは、真田坂で行われた上田地域の民話の語り会の一ページです。上田地方にはたくさん民話があります。「つじの娘」「神川の由来」「西行の戻り橋」「座頭ころがし」「枝垂れ榎」「小太ばば」「金焼き地蔵」「舞田峠の焼き餅石」等々。上田は民話の宝庫です。

なかでも「小泉小太郎」は、内容が深い上に、物語としての骨格がしっかりした優れた話の一つと言われています。有名な『竜の子太郎』（松谷みよ子・作）の素材として取り上げられたことでも知られるこの民話は、文中にも説明がありますが、竜でなく古来から変わらぬ蛇のまま伝えられている点やその背景にある地域性、語りものとして多様に展開される世界、ひとつひとつの出来事に込められているであろう想いに触れることが出来る、素晴らしい話です。民話は、子どもものだけではなくありません。大人が聞いてもその奥深さから学ぶ事もたくさんあります。実際の語りを聞きたい方は、<http://sanadzakajyo/>で聴くことができます。臨場感あふれるひと時を体験してみてください。（真田坂編集部スタッフ）

萩の花



上田の



蛇骨石を含む凝灰角礫岩の露頭

小泉小太郎伝説に登場する蛇骨石は、上田市の西方、産川上流の鞍が淵の岸辺で拾うことができません。科学的には沸石ともゼオライトとも呼ばれる鉱物でして本当の骨ではありませんが、放射状に集まった純白の美しい結晶を見て、そこに大蛇の骨を想起した昔の人々の想像力の豊かさに驚かされます。

不思議な形！きれいな！珍しい化石や石、地形

化石・岩石・鉱物

文●飯島新一郎 監修●山辺邦彦(郷土地質研究者)



(シナノイルカは泉田博物館にて見ることができます。要予約(高仙寺: 0268-24-7255) 入場料: 大人100円、小学生以下50円

で、7種類を選んで写真とともにご紹介いたします。

●シナノイルカ

上田市小泉の高仙寺の裏山にある別所層(1400~1500万年前の地層)から出てきた、原始的なイルカの化石です。現在のイルカと違う大きな特徴として、歯が極めて小さく数が多いこと、また体長に対して手が極めて長いことが挙げられます。高仙寺の裏の泉田博物館の中に、同じ場所から出土したクジラの化石とともに展示されています。

●焼き餅石

舞田峠の青木層(1100~1400万年前の地層)からは茶褐色の卵型をした焼き餅石が出てきます。これはノジュールといい、砂質泥岩に鉄分が付着して固くなったもので中は空洞になっており、振ってみるとカラカラ音がするも

左/ 焼き餅石を割ったところ、右/ 焼き餅石の外観



のこともあります。その姿が焼き餅(おやき)のようであるところから、焼き餅石の名がつけました。

旅の僧から餅をくれないかと請われた老婆が、「これは石の餅だから食べられない」と言つて僧を追い返したところ本当に餅が石になったという、「弘法大師の焼き餅石」伝説があります。

なお焼き餅石は武石でもよく知

味深いところです。

●ちがい石

独鈷山の北側、前山寺の裏山の

弘法山に産出する全国的に見ても珍しい石です。ガラス光沢のある石が×印のように互い違いになっているところから、「違い石」と名付けられています。その昔、弘法大師がこの地を訪れた時に、この石

を持つている者は自分の加護が得られると誓ったという伝説があり、「弘法大師の誓い石」とも呼ばれています。

ちがい石は中性長石という鉱物です。独鈷山へと貫入したデイサイトの中で生成され、長い年月の間に風化して結晶だけが抜け落ちてできました。拍子木状の二つの結晶がX字状に交わっている形を

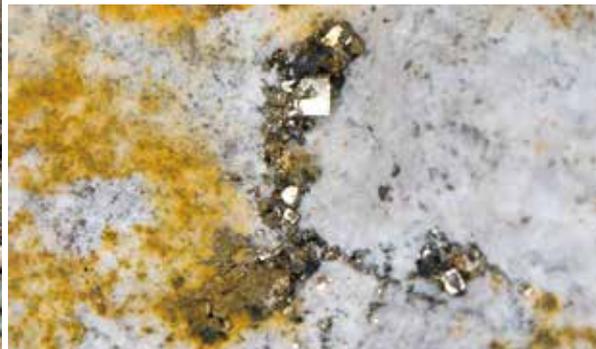
のものをカールスバッド双晶とい、ここまできれいなものは全国的に見ても珍しく、上田市の天然記念物に指定されていますので持ち帰らないようにしましょう。

●黄鉄鉱

太郎山の裏参道沿い、黄金沢上流の流紋岩には金色に輝く黄鉄鉱の結晶がたくさん含まれています。



黄金沢



黄鉄鉱



ちがい石

● 黄金沢の名はこれにちなんでおり、本物の金ではないものの美しい金属光沢を楽しむことができます。黄鉄鉱も太郎山が形成された時のマグマ貫入によりできたものです。黄鉄鉱は酸化すると硫酸を出し、黄金沢をはじめとした太郎山から流れ出る川の多くは強酸性となっています。上田城下町の用水をはるか東の神川から引いてきているのは、このためです。

● ご紹介してきたおもしろい鉱物・化石は、上田ならではの珍しいものです。驚くような面白い形をしたそれらを見て、自然の造形の不思議さに人知を超えたものを感じるの、科学万能の時代に生きる私たちも昔の人と同じところでしよう。ご紹介したものの多くは上田創造館1F展示室にて見ることが出来ます。

● そして、地図を片手におもしろい鉱物・化石が一体どこで出てくるのか、実際に歩いて見に行ってみましょう。どうしてもその場所ですんなりものが出て来るのか、その生い立ちにまで想いを馳せれば、数千万年前のダイナミックな地球の動きを見る地質学の門がそこに開いています。





Fbar 肉バル
 1階 カウンター7席
 2階、3階はゆったりしたテーブル席
 飲み放題メニュー有り
 TEL 0268-75-5841
 長野県上田市中央1-4-4
 松尾駅前ビル1階2階3階



Nofy

-Hair salon-

長野県上田市中央1丁目3-6 2F
 TEL: 0268-75-0644

Ladies select shop

私のお気に入り
 レディース
 セレクトショップ

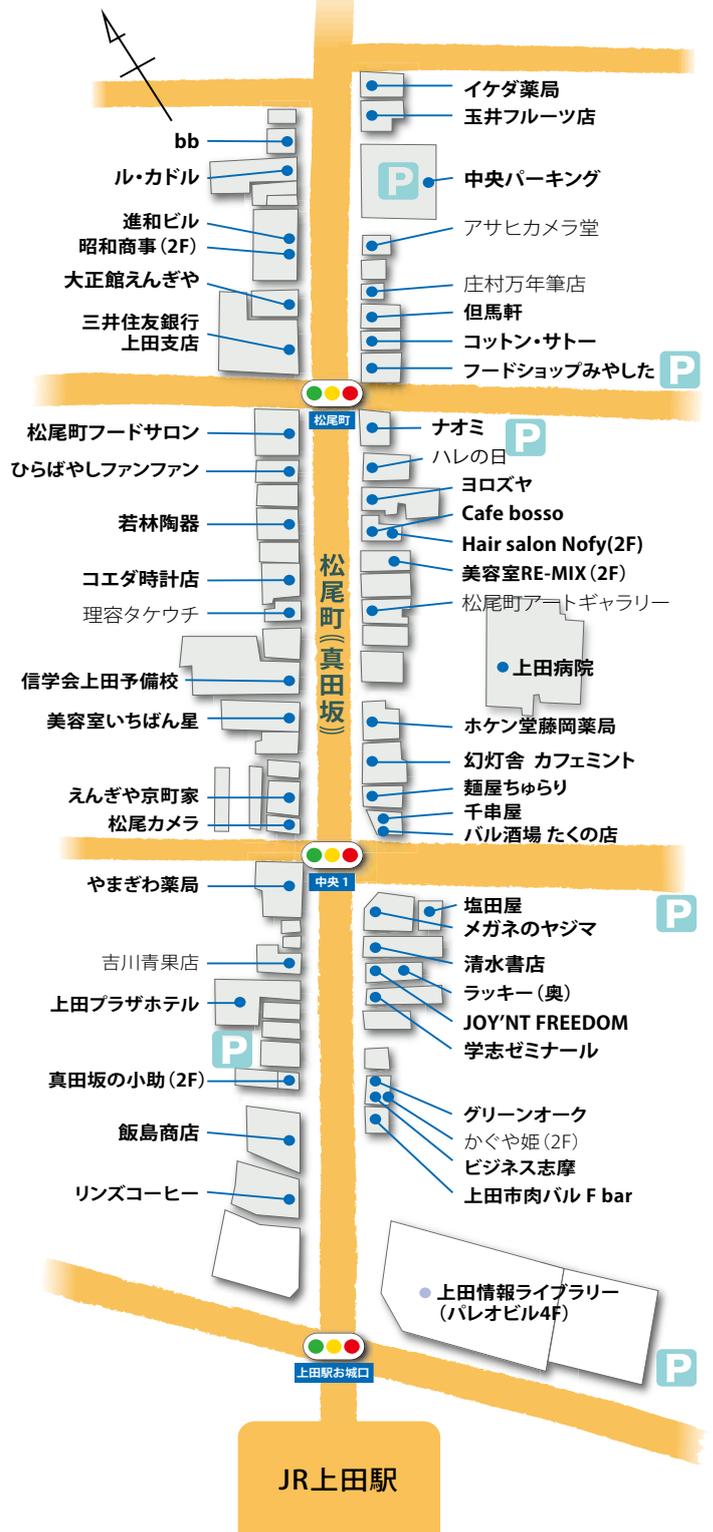
bb
 natully +

Café bossso (木曜日定休)
 jumboespresso info facebook / instagram

上田市中央 1-3-6
 TEL.0268-71-0656

#coffee
 #tea
 #meal
 #cake
 #wine

真田坂 MAP



太字はフリーペーパー協賛店

真田坂 第25号

編集後記
 今号、寄稿や取材協力いただいた皆様に厚く感謝申し上げます。次号では2千万年前のフォッサマグナから現在に至る、上田を形作った巨大な地質変動を掘り下げる予定です。今後とも真田坂をよろしくお願いたします。

発行日: 2018年3月31日
 ●ご意見、ご感想をお寄せ下さい。
 FAX 0268-21-1100
 ●真田坂web: <http://sanadazaka.jp>
 ●発行責任者: 長野県上田市松尾町商店街振興組合
 ●理事長: 志摩充彦
 ●「真田坂」担当理事: 飯島新一郎
 ●スタッフ: 佐藤隆平/平林敏夫/増田芳希/飯島新一郎/町田和幸/寺島遼